



2016年公益社団法人日本歯科先端技術研究所

学術講演会

審美補綴を再考する

2016年6月19日(日曜日) 10:00~12:00

名駅 IMAIビル AP 名古屋 8階 名古屋市中村区名駅4-10-25
Tel.052-561-1109

主催：公益社団法人日本歯科先端技術研究所 東海地区

大会長：近藤 昌嗣 (東海地区会長)

定員：100名

参加費：会員 無料・非会員 5,000円

※定員に限りがありますので、事前申し込みをお願いいたします。

お問い合わせ

公益社団法人日本歯科先端技術研究所
〒105-0014 東京都港区芝1-8-25 芝TKビルディング4F
TEL: 03-5476-2004 FAX: 03-5476-2006
www.nissenken.org

Agenda

9:00~10:00 (公社)日本歯科先端技術研究所 総会

10:00~12:00 学術講演会 BTAテクニック®の実際と展望



坪田 健嗣 先生

略歴

1982年 日本大学歯学部卒業
1987年 赤坂フォーラムデンタルクリニック (東京)開設
現在に至る

所属

- ・審美歯科 BTA 研究会会長
- ・日本歯科審美学会理事・認定医
- ・日本補綴歯科学会専門医
- ・日本アンチエイジング歯科学会常任理事・認定医
- ・日本抗加齢医学会専門医
- ・日本大学歯学部兼任講師 (補綴 I)

我々歯科医師の多くは、日常的に歯肉縁下の形成を行い歯肉縁下マージンのクラウンを装着しているが、歯肉縁下におけるクラウンマージンと歯周組織の関係についての研究は意外と少なく、どのようなクラウンマージンが適切であるのか、未だにコンセンサスは得られていないようである。

今回、話をする BTA コンセプトとは、BTA テクニックにおけるクラウンマージンと歯周組織の関係であり、クラウンマージンが辺縁歯肉に圧迫するような力がかかることで、辺縁歯肉がクラウンマージンに適合し、歯垢沈着、細菌の侵入を防ぐことを目的とした考え方である。

BTA とは Biological Tissue Adaptation の略語であり、生物学的な歯肉組織の適合という意味である。

BTA テクニックは、演者が歯肉ラインを整えるために考案した審美補綴法であり、歯肉ラインを根尖側方向に移動させるために、歯肉切除を行い、その歯肉切除ラインをマージンフィニッシュラインとして形成し、切除した歯肉と同じ幅に製作したオーバーハングマージンのクラウン(ラミネートベニア)を装着する。

BTA テクニックのマージンは、オーバーハングの形態をしているが、見方を変えると歯肉縁下の極端なオーバーカントウアである。歯肉縁下ではオーバーカントウアが歯肉に悪影響を与えるという研究論文はほとんど見当たらない。むしろ、強いオーバーカントウア(エマーゼンスアングルが50°)であっても、臨床的にも微生物学的にも問題がなかったとする研究論文や、歯肉縁下においてはオーバーカントウアの方が、歯垢沈着が低くなるという結果の論文がある。

ではなぜ、歯肉縁下のオーバーカントウアの方が、歯垢沈着が少なくなるのであろうか？それは簡単に言えば、オーバーカントウアの方が、クラウンマージンと辺縁歯肉との間の隙間(歯肉溝)が、小さくなるからではないだろうか？

そもそも、BTA テクニックは歯肉の後戻りをブロックするために、オーバーハングのマージンを製作するが、オーバーハングマージンに対し、辺縁歯肉が圧力をかけて適合する(BTA コンセプト)ことで、隙間(歯肉溝)がなくなり、歯垢沈着や細菌の侵入を防ぐことができるものと考えている。長期的に成功しているインプラントの歯肉貫通部や、オペイトポンティックの粘膜接触部も同様の状態であろう。今回、BTA テクニックにおけるクラウンマージンと歯周組織の関係となる BTA コンセプトについて、症例を通して説明を行いたいと思う。

※本講演会は日先研インプラントフェロー・マスターの更新用教育講座となっています。

2016年6月19日 (公社)日本歯科先端技術研究所 学術講演会参加申込書

下記に必要事項をご記入の上、FAX: 03-5476-2006 までご送信ください。

ふりがな 氏名	連絡先	TEL	FAX
		e-mail	
住所 (医院名)	〒	<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 歯科関係者 <input type="checkbox"/> 一般	